

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護予防の推進
区分	自立支援・介護予防・重度化防止

現状と課題

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果より（n=677）
 - ・「転倒リスク」38.0%
 - ・外出を控えている理由「足腰の痛み」39.6%
 - ・「生きがいがある」45.3%
 - ・「会やグループへの参加に参加している」約10～20%
 - ・健康づくり活動や趣味等のグループ活動への「参加意向あり」約45%、「企画・運営としての参加意向ありの割合」約30%
 - ・介護予防の取り組み「あり」48.7%
- 要介護認定者の原因疾患より「骨・関節疾患」「認知症」「高血圧」「骨折・転倒」が高順位である。
- 住民自らが地域のつながりを大切にし、主体的に介護予防活動に取り組み、活動を継続できるよう支援する必要がある。
- フレイルの恐れがある高齢者を早期に把握し、適切な支援により要介護状態になることを予防する必要がある。

第9期における具体的な取組

【介護予防の推進】

①介護予防の普及啓発

高齢者の健康づくりや介護予防に関する知識の普及啓発を行ったり、地域の通いの場での出前講座を開催する。

②地域介護予防活動の支援

住民主体の通いの場づくりを支援し、高齢者自らが健康づくりや介護予防に継続的に取り組むことを支援する。

リハビリテーション専門職と連携し取り組みを推進する。

通いの場参加者の拡大や活動内容の充実のため、eスポーツの取り組みや介護予防ポイント事業を実施する。

③介護予防・生活支援サービスの提供体制の充実

自立支援に基づく適切な介護予防ケアマネジメントを行う。

多様なニーズに対し、提供体制を整え介護予防と生活支援を推進する。

目標（事業内容、指標等）

事業内容・指標		令和6年度	令和7年度	令和8年度
介護予防講座	開催回数	25	25	25
地域つながりサロン	グループ数	37	37	37
いきいき百歳体操	グループ数	25	25	25
シルバーリハビリ体操教室	開催箇所数	26	26	26
通いの場等リハ専門職の支援	回数	25	25	25
訪問型サービス（現行相当）	延人数	300	300	300
訪問型サービス・活動A	延人数	36	36	36
訪問・通所一体型	実人数	10	12	12
通所型サービス（現行相当）	延人数	1,200	1,200	1,200
通所型サービス・活動C	実人数	16	16	16
介護予防ケアマネジメント	延人数	580	590	600

目標の評価方法

●時点・・・実績評価のみ

●評価の方法

- ・事業実施回数及び参加人数等が目標値に到達できたか。
- ・次期計画策定時のアンケート調査における関連項目（基本チェックリスト・生きがい・地域活動など）によるアウトカム評価

年度	令和6年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

実績評価

実施内容																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業内容・指標</th> <th>R6 度実績値</th> <th>達成率 (目標値比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防講座 開催回数</td> <td>4</td> <td>16.0%</td> </tr> <tr> <td>地域つながりサロン グループ数</td> <td>34</td> <td>91.9%</td> </tr> <tr> <td>いきいき百歳体操 グループ数</td> <td>23</td> <td>92.0%</td> </tr> <tr> <td>シルバーリハビリ体操教室 開催箇所数</td> <td>23</td> <td>88.5%</td> </tr> <tr> <td>通いの場等リハ専門職の支援 回数</td> <td>15</td> <td>60.0%</td> </tr> <tr> <td>訪問型サービス（現行相当） 延人数</td> <td>217</td> <td>72.3%</td> </tr> <tr> <td>訪問型サービス・活動 A 延人数</td> <td>19</td> <td>52.8%</td> </tr> <tr> <td>訪問・通所一体型 実人数</td> <td>5</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>通所型サービス（現行相当） 延人数</td> <td>1,122</td> <td>93.5%</td> </tr> <tr> <td>通所型サービス・活動 C 実人数</td> <td>12</td> <td>75.0%</td> </tr> <tr> <td>介護予防ケアマネジメント 延人数</td> <td>665</td> <td>114.7%</td> </tr> </tbody> </table>		事業内容・指標	R6 度実績値	達成率 (目標値比)	介護予防講座 開催回数	4	16.0%	地域つながりサロン グループ数	34	91.9%	いきいき百歳体操 グループ数	23	92.0%	シルバーリハビリ体操教室 開催箇所数	23	88.5%	通いの場等リハ専門職の支援 回数	15	60.0%	訪問型サービス（現行相当） 延人数	217	72.3%	訪問型サービス・活動 A 延人数	19	52.8%	訪問・通所一体型 実人数	5	50.0%	通所型サービス（現行相当） 延人数	1,122	93.5%	通所型サービス・活動 C 実人数	12	75.0%	介護予防ケアマネジメント 延人数	665	114.7%	<p>※令和6年度：eスポーツの取り組み 1か所 年2回 シルバーリハビリ体操3級指導士養成累計者数 60人</p>	
事業内容・指標	R6 度実績値	達成率 (目標値比)																																					
介護予防講座 開催回数	4	16.0%																																					
地域つながりサロン グループ数	34	91.9%																																					
いきいき百歳体操 グループ数	23	92.0%																																					
シルバーリハビリ体操教室 開催箇所数	23	88.5%																																					
通いの場等リハ専門職の支援 回数	15	60.0%																																					
訪問型サービス（現行相当） 延人数	217	72.3%																																					
訪問型サービス・活動 A 延人数	19	52.8%																																					
訪問・通所一体型 実人数	5	50.0%																																					
通所型サービス（現行相当） 延人数	1,122	93.5%																																					
通所型サービス・活動 C 実人数	12	75.0%																																					
介護予防ケアマネジメント 延人数	665	114.7%																																					
自己評価結果 【◎または○】																																							
目標は達成できた、または概ね達成できた																																							
課題と対応策																																							
<p>■介護予防の普及啓発 講座内容や実施方法の見直しや住民が参加しやすいよう工夫し、効率的かつ効果的な開催を検討する。</p>																																							

■地域つながりサロン/いきいき百歳体操

地域住民が主体となり、身近な場所で体操やレクリエーションなどを行い介護予防に取り組んでいる。地域介護予防活動においては、お世話役の高齢化や参加者の固定化などが課題である。

■シルバーリハビリ体操指導士活動への支援

リハビリテーション専門職による通いの場運営支援などを実施し、シルリハ体操3級指導士のスキルアップを図り、主体的な活動の継続に向けて支援を継続する。

■住民主体の通いの場が活動を継続できるよう社会福祉協議会やリハビリテーション専門職、各種団体等と連携し取り組みを推進していく。

■訪問型サービス

訪問型サービス（現行相当）の利用者数は低迷、有償ボランティアや訪問型サービス・活動Aは徐々に利用が増えている。訪問型サービス・活動Cの参加者数は減少しており、ひきつづき周知活動や対象者の選定に取り組んでいく。

■通所型サービス

通所型サービス（現行相当）の利用は現状維持であるが、通所型サービス・活動Cの参加者数が低迷しており、ひきつづき周知活動や対象者の選定に取り組んでいく。

■介護予防ケアマネジメント

ケアマネジメント実施件数は増加している。ひきつづき、高齢者の自立支援を目的に継続的・包括的ケアマネジメントを実施していく。また、ケアプラン作成委託先の支援を実施していく。

※「◎達成できた ○概ね達成できた △達成はやや不十分 ×全く達成できなかった」